

2023年9月10日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「ダビデとゴリアトのたたかいから」

聖書：サムエル記上17：41～54

舞台はイスラエル人对ペリシテ人の対決である。しかしこの戦い、あまりにも不利で偏った力関係である。ゴリアトは身長が3メートルもある巨人で、60キロもある鉄兜と鎧を着こなし、鋭い剣を振りかざし、百戦錬磨の戦争の達人である。方やダビデは、まだ少年であり戦などやったことも見たこともない羊飼いであった。完全防備のゴリアトが、剣を振り回してかかって来る中、ダビデは獅子や熊を倒した石投げの石で立ち向かうのだ。だがその投じた石が、鎧の隙間をぬって命中し、巨人のゴリアトが倒れた。ダビデは見事勝利し、イスラエルに平和をもたらしたのである。

この「ダビデとゴリアト」の物語から何を聞いていくというのか？ 一つは、ダビデ同様、イスラエルの王サウルも、民も、生ける神、万軍の主を信じる者たちであった。しかし、現実には巨人ゴリアトが彼らの前に現われた時、彼らの信仰は、敵にいどむほどのものではなかった。ダビデはゴリアトの巨大さを知らないわけではない。また自分の無力さを知らないわけでもない。ただ彼はその状況にあっても、主なる神の名を信じたのであり、その神の名によって立ち向かって行ったのである。どんな現実が私たちの前に立ちだかっただとしても、全能の主を信じ、主により頼むダビデの信仰に教えられたい。

もう一つ。当時のイスラエルはペリシテの支配下にあった。サムエル記上13章19節「さて、イスラエルにはどこにも鍛冶屋がいなかった。ヘブライ人に剣や槍を作らせてはいけないとペリシテ人が考えたからである。」それは何を意味するのか？ ペリシテ人は、最強の鉄の兜、鎧を装備し、盾と矛を備えていた。当時の最新兵器である。方やイスラエルは、金属加工する設備、鍛冶屋はなく、兵器というものを備えることが難しい状況にあった。イスラエルの戦う武器と呼べるものの多くは石と棒ぐらいのもの。その状況は、現在のイスラエルとパレスチナを入れ替えたのと全く同じ状況である。

「ダビデとゴリアトのたたかい」は、この世においてなお続く。不条理な闘いが強いられている。私たちはその現状に向き合いきれぬか。万軍の主を礼拝する者よ、なお王サウルのように、イスラエルの民のように尻込みする者か。私たちは、主なる神が共に居てくださるということを信じ切れるのか。不条理な闘いが強いられている中で、私たちの平和の歩みを担わせて頂こう。(神谷)